

三遠南信地域交流たずねある記（9）

三遠南信地域 路線バス乗り継ぎの旅（5）

浜松駅から豊橋駅へ（2）

～ 県境越えに意外な苦勞・コロナによる運行への影響が（4）～

前回（4年10月 No.523）浜松駅を出発し白須賀宿（湖西市）に到着。いよいよ静岡・愛知の県境を越え本日中に豊橋駅に到着する。



一里山の一里塚（豊橋市）

■ 白須賀宿から駆け足で一里山へ

静岡県の東海道白須賀宿から愛知県側のバス停^{ふたがわ}豊鉄バス二川線一里山バス停までは徒歩となる。今回は舞阪～鷺津駅間をJR東海道本線で移動したが、前回浜松駅から湖西市役所行きバスがあったときと同様白須賀宿（JA白須賀支店バス停）着15時38分のバスで行く。

白須賀宿から一里山バス停は地図アプリで見ると1.8km、これまでの徒歩を余儀なくされたどの区間よりも短かく、静岡・愛知県境の越境は楽勝だ。と思ったところが、時刻表を見て驚いた。白須賀着が15時38分、一里山バス停発が16時4分、僅か26分。これは困った。一里山から豊橋駅行きのバスは1日1本で、これを逃すと今日中に豊橋駅へたどり着けない。地図アプリでは徒歩23分となっている。駆け足で行けば何とかなるかもしれない。

ほぼ定刻にJA白須賀支店に到着。早速ダッシュを開始した。しばらくは昔の宿場の面影を残す民家の並びが続く。家並みが途切れるところまで行くと県道173号（湖西東細谷線）に合流する。これは白須賀宿をバイパスする道路で、外部の車に宿場を迂回させている。その先は片側が神社の鬱蒼とした森、反対側は民家や若干の事業所が県道に沿って続いている。東笠子通りとの信号交差点を過ぎると「愛知県」「豊橋市」の看板が立っている。愛知県に入った。

愛知県は途端に家が少なくなり、畑が広がる光景となる。間もなく中央分離帯がある片側2車線の国道1号に接続する。「一里山東」という信号交差点だ。横断歩道を渡って左側の歩道を進む。ここまでかなりの速足で歩いてきた。とにかくバスが来る時間までに間に合わせなければならない。

国道1号の両側は畑が多く、運送関係や建設業などの事業所が点在している。やがて、コンビニとコインランドリー、運送関連の事業所がある広い敷地が見えてきた。あれが一里山バス停のあるところだ。間にあった。時計を見ると白須賀宿から15分弱で到着できた。

■ 一里山バス停で東三河の農業を見る

「一里山」という地名は、江戸時代の街道の一里塚と関係があるのかと思っていたが、その通りだった。バス停から少し離れたところに森があり、行ってみると豊橋市教育委員会が作成した説明看板が立っている。徳川家康が慶長9（1604）年に東海道をはじめ各街道に「榎を植えた一里塚を築かせ、全国に普及させた」。この一里塚は「道路を挟んで左右に1基づつあった」が、現在反対側は民地となっていて何もない。森の中を覗くと高さが3メートルはあると思われる塚が見られる。

バス停の周りは一面の畑。田（稲作）にするための適当な水利は見受けられないように思われた。全体にいわゆる赤土分の多い土質だが、当地域の赤土とは異なり礫（かなり大きな石も）が交っていて耕作は大変そうに見えた。その畑で何か見慣れないものが栽培されている。近寄って見ると紫蘇（赤じそ）だった。

三遠南信地域 路線バス乗り継ぎの旅 概略図
白須賀宿～一里山バス停



愛知県「よくわかるあいちの農業2020」によると、愛知県は農作物作付延べ面積は全国で17番目、農業産出額は全国で8位の大農業県。その中で東三河地域は「ビニールハウス、ガラス温室による野菜や花きの施設栽培が盛ん」としている。紫蘇（大葉、赤じそ）については豊橋市、豊川市、田原市を中心に産出額137億円で全国1位（シェア72%）を誇るということだった。



一里山バス停付近の赤じそ畑（豊橋市）

豊橋市に限っても、豊橋市が収穫量、作付面積、出荷量3部門とも県下1位の品目がある。秋冬はくさい、ニラ、冬レタス、夏秋きゅうり、かぼちゃ、冬春なす、夏秋ピーマン、さやえんどう、柿だという（豊橋市HP・ジャパクロップスHP）。この他に、春植えばれいしょ、秋冬だいこん、小松菜、冬キャベツ、春ねぎ、秋冬ねぎ、カリフラワー、ブロッコリー、春レタス、チンゲン菜、冬春トマト、いちご、メロン、すいか、梨、ぶどうが県下で3部門とも2位ないし3位となっている。

■またも徒歩での移動となる

バスが到着する時刻になったが、来る気配がない。おかしいと思いつつ停留所の標識を見てみると「新型コロナ感染により平日ダイヤの乗務員の確保ができないことから、当分の間休日ダイヤでの運行を実施する」という表示が貼り付けられている。休日ダイヤということはここまでバスが来ないということだ。豊鉄バスの営業所に電話した。「シンフォニアテクノロジーバス停まで来てくれば、1時間に1本は運行している」とのこと。

ここに居ても埒が明かないので、国道1号を歩き始めた。地図アプリで約4km位、暑い日差しの下を歩く。沿道は民家や事業所がポツポツとある程度で、バス輸送の需要は多くないと思われた。やがて巨大な工場が見えてくる。正門前に広いスペースがありバス停があった。1時間弱程の移動だった。シンフォニアテクノロジーは旧神鋼電機のことと判る。



豊鉄バス二川線
シンフォニアテクノロジー～豊橋駅
530円

豊橋駅行きは17時10分発。ちょうど退社する社員が乗り込み、立つ人も出る混雑となる。バスは、東海道新幹線と東海道線を潜り県道3号を行く。

JR二川駅に着くと大勢が電車に乗るため降車した。二川駅を発車するとバスは県道に戻り、その後国道1号に入った。夕方の渋滞ノロノロ運転で豊橋市街地に入り、瓦町、東新町、八日間通り、駅前大通りなどを通過し、バスや路面電車の発着で賑わう豊橋駅へと到着したのであった。

三遠南信地域 路線バス乗り継ぎの旅 概略図
一里山バス停～豊橋駅



■コロナ後の路線バスの行方は

果たしてコロナ後に二川線の一里山バス停までの路線が復活するか。公共交通の現状から前途は厳しいのではないか。

（飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平）